

音楽と私

下妻シニアアンサンブル代表 鳩貝千春

私と下妻シニアアンサンブルとの出会いは、岡村様とつくばシニアアンサンブルで活動されていた下妻在住のSさんが私の家を訪ねてこられて、下妻シニアアンサンブルを立ち上げたい、ぜひ入ってもらえないか、とお誘いをうけたことがきっかけです。名前だけでよければ、ということで入団させていただくことにしましたが、教員を退職したとはいえ、いろいろな方面から指導を依頼されて、極めて多忙な日々を送っていたことや自分自身の人生の目的を達成させるための仕事をスタートしていて、こちらもかなり時間を割いていたため、活動できるのか自信がありませんでした。

小学校3年の時に母から妹と一緒にヤマハの教室に通わされました。ここではピアノの技術よりも、聴音やリズムうちなどが面白くて、夢中になりました。

高校受験のために2年ほどピアノの練習はお休みしましたが、高校では吹奏楽部に入部して、初めてクラリネットなどを学びました。大学進学を音楽か英語か悩んだ末、音楽大学に進学することにしました。ここでは、声楽科や作曲科など、ピアノ科以外の音楽活動にふれることができ、特に声楽には興味をもち、声楽科に転向したいと考えたこともあります。大学では、ピアノ科や声楽科、作曲科の友達ができ、今でも連絡を取り合っています。

音楽大卒業後は、県内の音楽教師として採用され、36年間中学校の音楽教師として働いてきました。音楽の授業は勿論、合唱指導も随分してきましたが、最も力を注いだのは、吹奏楽部でした。各種吹奏楽コンクールに出場したり、各地で演奏活動をしたり、他校との合同を行ったりと、ほとんど土日夏休みも冬休みも活動に明け暮れていました。生徒たちのレベルはかなり高く、関東大会や全国大会にも駒を進めたこともあります。そのために音楽的ではない演奏を聴くことは大変つらいこともあり、シニアアンサンブルの演奏活動に参加することには当初躊躇していました。



いざ、下妻シニアアンサンブルの練習が始まり、楽しい時間を過ごしているうちに、次第にやりがいを感じられるようになってきました。楽器はどれでもある程度は演奏できますが、下妻の楽団には打楽器が入ると演奏がより引き締まるかと思い、ドラムを担当することにしました。吹奏楽部では打楽器の指導もしたりして、ドラムも叩いたこともあります。そこで思い切ってドラムの基本を習おうと、ヤマハの大人の音楽教室に入

りました。これもまた、私の音楽生活を広げてくれました。コロナ感染症の影響もあり、中級程度までしか進めませんでしたが、基本を学ぶことができ、大変楽しかったです。

今後は団長として団を支え、ますます下妻シニアアンサンブルが発展できるよう、頑張ってまいります。